



梨の一大生産地

世羅といえば梨。赤梨三水（新水・幸水・豊水）が有名で、8月～10月中旬がシーズン。ジャムなどの加工品も充実。

みはらっせ

みはらっせからスタートだ！



40



みはらっせの輪

しりとりでつなげよう！みはらっせの輪！

せらなし

(世羅梨)

なぞ40なぞ

しんごにち

(神明市)



神明市のシンボル 巨大ダルマ

三原・冬の一大イベント、別名“ダルマ市”。三原駅前の西町から東町までダルマや植木などを売る露店や多くの人で賑わう。次回は2010年2月12～14日開催。

みはらっせの

コレナッダー

その5



「コレナッダー」はみはらっせエリアで発見した、読者のみなさんの「これ何だ？」に編集室がお応えしていくコーナーです。



西浜と呼ばれていた港町1丁目にひっそりと佇む敷石記念碑。
左手の虫籠（むしこ）窓のある町屋は江戸期から代々続く老舗「勝村商店」。
港町三原の往時の姿を垣間見ることができる。

西浜のもやい柱？

Q 三原駅から歩いて2・3分、港町1丁目の古い路地を歩いていると、道端に高さ60センチぐらいの道標のような不思議な石を発見しました。記念碑と書いてあるのですが、この石はいったい何でしょうか？（みはらっせ特派員・久井の紋次郎・38歳）

A よくぞ発見しました。あなたは町歩きの人です。県道25号線東城分かれから二歩駅寄りに入ったこの界隈はとてもデカイエリア。古いものがほとんど消えて去っていく三原においては、明治・大正・昭和の面影が残る数少ないゾーンでもあります。さつき現地へ。紋次郎さんが見つけたその物件は「敷石記念碑」と書かれており、道標ではないようです。建立は明治29年。数人の名前が彫られています。ただこれ以上は不明？？？地元勝村商店の主人に話を伺いました。「昔このあたりは西浜と呼ばれており、この石のところから東側は入江でした。敷石というのはたぶん雁木のことでしょう。200mはある立派な長雁木があったと聞いています。完成は明治29年、工事にお金を出した人たちの名前も一緒に彫られています。うちの先祖も入っています。この石は雁木完成記念碑兼、寄付者名簿のようなものじゃないでしょうか？もとはもって入江の奥にあったそうですが、30年前に縁あってここに運ばれてきました。ただ、ロープをつないだ跡のようなものもありますから当時はもやい柱としても利用されていたんじゃないでしょうか？」ということ。長雁木は今も地面の下に沈んだまま。地中に眠る巨大な土木遺産に合掌。

（みはらっせ編集室・あるくみるぎくのも男）



「明治の終わりまでこのあたりから向こうは海だったんです」と11代目当主勝村善博さん。

- ※1 県道25号線Ⅱ三原と世羅をつなぐ県道（通称・みはらっせ街道）
- ※2 雁木（かんぎ）Ⅱ港などにある石でできた階段状の船着場
- ※3 もやい柱Ⅱ船を碇泊させるためにロープをつなぐための杭